令和4年度文化芸術による子供育成推進事業 - 巡回公演事業 - ワークショップ実施計画書

| 制作団体名 | かぶしきがいしゃボックスょろづや 株式会社B0X4628 |
|-------|------------------------------------|
| 公演団体名 | まきなわでんとうくみおどり しー かい 沖縄伝統組踊「子の会」 |

内容

おきなわ伝統芸能『琉球舞踊』と『組踊』

ワークショップ プログラム

【1時間目】

- ① 琉球芸能についての、お話
- ② 『琉球舞踊』 の特徴の紹介と体験
- ③ 『組踊』 の特徴の紹介と体験
- ④ 三線とパーランクーの構造や音色の紹介
- ⑤ エイサー体験コーナー 演舞曲:安里屋ユンタ
- ⑥ 質問コーナー

【2時間目】

☆エイサー演舞のお稽古の時間

- ① 代表児童・生徒全員にパーランクーを持ってもらいます
- ② 正しい、パーランクーの打ち方をお伝えします
- ③ 振付をいくつかのパートに分けて、繰返し練習します
- ④ 最後に、三線の演奏「安里屋ユンタ」の曲に合せて通しリハーサルを行います

初めに琉球舞踊の基礎知識をお話しし、続いて琉球舞踊の手踊りを3種類体験して頂きます。

組踊も同様に基礎知識をお話しして、組踊の男女の座り方を体験して頂きます。 次に沖縄芸能に欠かせない楽器「三線」を紹介して音色を聞いて頂きます。

最後にエイサーの体験です。児童・生徒にパーランクーを配布して、三線の演奏と唄に 合わせて、八重山民謡「安里屋ユンタ」のエイサー演舞を体験して頂きます。

こうして「琉球舞踊」「組踊」「エイサー」3つの芸能を紹介し体験してもらいます。

① 琉球芸能についての、お話

成立ちや基礎知識を紹介します

☆ ホワイトボードや黒板などを使って、お話を進めます



琉球芸能のお話をしている様子

② 『琉球舞踊』 の特徴の紹介と体験

手を使った表現(手踊り)と歩き方を体験してみましょう

☆ 手を使った表現(手踊り)を紹介します

「招き手」「こねり手」「かえし手」です。

幸せを呼び込み、その幸せを皆さんにお配りする、という思いが込められています。

☆ 歩き方は、足を上げず、足の長さ分だけ進む摺り足です



児童・生徒が手踊りをしている様子

③ 『組踊』 の特徴の紹介と体験

役柄によるセリフ(唱え)分けと、座り方の違いを体験してみましょう

- ☆ セリフ分けは、老若男女でそれぞれ異なった話し方をします
- ☆ 男女の役柄で座り方の違いを体験します。左足を立て膝にして、

膝頭が身体の外側に有るのが男性、内側に有るのが女性の座り方です。





左が男性役、右が女性役の座り方

④ 三線とパーランクーの構造や音色を紹介します

- ☆ 三線の竿の部分は黒木、胴の部分は木材の枠に、ニシキへビの皮が張ってあります
- ☆ パーランクーはエイサー体験で使用する楽器です







三線

パーランクー

衣装

⑤ エイサー体験コーナー (演舞曲:安里屋ユンタ)

児童・生徒、全員に、パーランクーとバチを持ってもらい、

指導者が前に立ち、振付を繰返し覚えながら、エイサーの体験です



パーランクーを持ってエイサー体験の様子

⑥ 質問コーナー

児童・生徒が、初めて触れる琉球芸能の、疑問・質問にお答えします

ワークショップ プログラム

【2時間目】

代表児童・生徒と、本公演に於いて演舞を行うエイサーのお稽古の時間となります。 代表児童・生徒はパーランクーを持ち、振付や打つタイミングを練習します。 初めてエイサーに触れる児童・生徒にも指導者が丁寧に指導致します。

☆ エイサー演舞のお稽古の時間となります

- ① 代表児童・生徒全員にパーランクーを持ってもらいます
- ② 正しい、パーランクーの打ち方をお伝えします
- ③ 振付をいくつかのパートに分けて、繰返し練習します
- ④ 最後に、三線の演奏「安里屋ユンタ」の曲に合せて

通しリハーサルを行います



三線の演奏に合わせて通しリハーサルの様子

タイムスケジュール(標準)

ワークショップ開始の1時間前に学校到着し着替えと準備を行います。 1時限目:全校児童・生徒の方々を対象に行います(45~50分程度)

休憩時間10分

2時限目:体験者代表による、演舞の練習時間になります(45~50分程度)

終了後、着替えと片付けを行い、約30分程度で退校いたします。

派遣者数

主指導者: 1名 補助者: 4名 スタッフ: 1名 合計: 6名

学校における事前指導

特にございません。

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業 - 巡回公演事業 - 本公演実施計画書

| 制作団体名 | かぶしきがいしゃボックスよろづや 株式会社B0X4628 |
|-------|------------------------------------|
| 公演団体名 | まきなわでんとうくみおどり しー かい 沖縄伝統組踊「子の会」 |

演目

おきなわ伝統芸能『琉球舞踊』と『組踊』

本公演 プログラム

【第1部】

① 琉球舞踊 『四つ竹』(踊りこはでさ節) 種類:古典女踊り

振付・監修: 志田房子 国指定重要無形文化財「琉球舞踊立方」(各個認定)

人間国宝、琉球舞踊重踊流宗家

- ② 琉球舞踊 『四つ竹』の作品紹介とあらすじのお話
- ③ 「沖縄ことばクイズ」・「楽器紹介」・「沖縄音楽ミニコンサート」
- ④ 「エイサー演舞発表コーナー」★代表児童・生徒による演舞発表コーナー

演舞曲:「安里屋ユンタ」(安里屋節)種類:沖縄県八重山民謡/作詞:星克

【第2部】

⑤ 組踊 『万歳敵討』の作品紹介とあらすじのお話

⑥ 組踊 『万歳敵討』種類:仇討物/作者:田里朝直

初演:1756年尚穆王冊封の宴で上演

監修:宮城能鳳 国指定重要無形文化財「組踊立方」(各個認定)

人間国宝、宮城本流鳳乃會家元 公演時間(90分)

派遣者数

出演者: 19名 スタッフ: 6名 合計: 25名

タイムスケジュール(標準)

9時20分 学校(会場)到着 出演者・スタッフ全員

9時30分 搬入・仕込み

13時30分 本公演 開演 (休憩10分程度)

15時00分 本公演 終演

15時15分 撤去(児童・生徒退場後)

16時30分 退出

実施校への協力依頼人員

会場となる場所が、2階や3階となる場合は、搬入の際に、数名の方にお手伝いをお願い 出来ますでしょうか。

演目解説

【第1部】

① 琉球舞踊『四つ竹』上演

プログラムの始めに沖縄の空気や風を感じていただきます。

竹で作られたカスタネットのような鳴り物、四つ竹を両手に持ち、それを「踊りこはでさ 節」に乗せてカチカチと打ち鳴らしながら踊ります。

衣装は沖縄を代表する伝統的な染色技法で染められた、艶やかな紅型衣装を身にまとい、頭に花笠を被り、(歌詞)「四つ竹を打ち鳴らし鳴らして、今日はこのようなおめでたいお座敷で、踊り遊ぶことの嬉しさよ」と優雅に華やかに踊ります。



琉球舞踊『四つ竹』上演のシーン お客様をおもてなしする時に、踊られる舞踊です

② 琉球舞踊 『四つ竹』の作品紹介と、あらすじのお話

·案内役が、児童・生徒の頭に絵を描くように、丁寧にお話します

③ 「沖縄ことばクイズ」

・沖縄県の方言ウチナーグチを、クイズ形式で紹介します



案内役が丁寧にプログラムを進めます



沖縄ことばクイズをリーンに投影します

地謡(演奏家)による「楽器紹介」

地謡のみなさんが、5種類の楽器を紹介します。

それぞれ短いフレーズのメロディを演奏します、音色を聞いてみましょう

「沖縄音楽ミニコンサート」

古典音楽、沖縄民謡、現代音楽の各ジャンルから、それぞれ1曲ずつ演奏します、 音色の違いを聞き比べてみましょう



地謡(演奏家のみなさん)

4 エイサー演舞発表コーナー

エイサーは昨今では全国的に広まった沖縄の民俗芸能です。

1603年から1606年にかけて当時の琉球王である向寧王の知遇を得た浄土宗の「袋中上人」が仏典を踊りながら唱える"念仏踊り"を伝え、沖縄独自の仏典踊りの形態であるエイサーへと発展したと言われています。

今回、演奏される「安里屋ユンタ」は、古謡の「安里屋ユンタ」ではなく、1934年に標準語でレコード化された曲となります。

安里屋は屋号を意味しており、ユンタとは八重山民謡の形式の1つです。八重山諸島で 歌われる仕事唄、労働歌です。



地謡の生演奏による、児童・生徒のエイサー演舞シーン 演舞曲:「安里屋ユンタ」ワークショップと本公演までの練習の成果を発表してください

【第2部】

⑤ 組踊 『万歳敵討』 の作品紹介とあらすじのお話

・案内役が、児童・生徒の頭に絵を描くように、丁寧にお話します

6 組踊 『万歳敵討』上演

首里に高い位の高平良御鎖という、とても傲慢な人がいました。

高平良御鎖は大謝名の比屋という人が飼っていた、よく走る立派な名馬を欲しがっていました。高平良御鎖は大謝名の比屋に譲ってくれるようにと頼みますが、断られたことを恨みに思い、大謝名の比屋を殺してしまいます。

殺された大謝名の比屋には、2人の兄弟がいました。兄は謝名の子、弟は慶雲と言います。父を殺された兄弟は、旅芸人に姿を変えて仇討ちの機会を狙っています。

最後に仇討ちを遂げることが出来るでしょうか。終盤の兄弟が敵意を剥き出しにして 高平良御鎖に迫ります、その気迫に満ちた息の合った舞踊と所作、それを必死にかわそう とする高平良御鎖、緊張感のある緊迫したシーンが見どころです。



組踊『万歳敵討』上演のシーン 弟の慶雲(左側)、兄の謝名の子(中央)、敵の高平良御鎖(右側)

カーテンコール

出演者全員、舞台に登場し最後にご挨拶を致します

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

代表児童・生徒による、エイサー演舞の発表をしていただきます。 演舞曲は「安里屋ユンタ」(沖縄県八重山民謡)です(プログラム④)

- ①代表児童・生徒は、本公演1部の最後に、舞台袖で支度をしてもらいます。体操着の上に打掛け(衣装)を羽織り、帯を締めて、手にはパーランクーとバチをそれぞれ持ちます。他の児童・生徒は、代+表児童・生徒が支度している間、ステージ横に設置したスクリーンに映し出される安里屋ユンタの歌詞を見ながら、案内役と一緒に地謡の演奏「安里屋ユンタ」に合わせてお囃子(手拍子)の練習を行います。
- ②代表児童・生徒の支度が整ったら地謡の演奏に合わせて、体育館内のそれぞれの決まった場所へ移動します。いよいよエイサー演舞の発表です。地謡の生演奏で「安里屋ユンタ」の曲に合せて演舞を行います。他の児童・生徒は練習したお囃子(手拍子)で盛り上げます。会場全体が一体となり、楽しい雰囲気を作り出します。
- ※代表児童・生徒は、本公演当日、公演の前にリハーサルを行って本番を迎えます。 ※地謡とは、琉球舞踊、組踊の上演の際に、伴奏を行う、三線・箏・胡弓・笛・太鼓の演奏家の皆さんのことを言います。本公演に於いて体育館ステージの右側に台組をして正座をして演奏致します。

児童生徒とのふれあい

案内役が積極的に児童・生徒のみなさんと言葉を交わしてコーナーを進めます。

終演後に代表者からの感想を聞いております。

終演後に学校側からのご意向があれば、伝統的な琉球舞踊・組踊の衣装を身に着けた 出演者の皆さんとの記念撮影を行います。

感想文などがある場合は、出演者の皆さんに読んでいただいております。